

## ミニレポート

# 当院におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 及びメチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) の検出について

浜松赤十字病院 医療技術部 検査技術課  
鈴木裕子

### 要 旨

MRSAは1980年代半ばから重症の院内感染症として多くの医療機関で経験されるようになり現在でも重要な院内感染症のひとつに位置づけられている。MRSAの院内感染を防止するために、罹患しやすい患者に対する予防策をとることは重要である。細菌検査システム (BIOLINK) を用いMRSAとMSSAについて、年齢・病棟・検査材料における統計作業を試みたことにより、当院の罹患患者の傾向の把握が出来た。

### Key words

MRSA, MSSA, 院内感染

## I. 緒 言

院内感染対策は医療機関の重要な業務のひとつであり、現在の医療機関において必要不可欠である。当院は移転を契機にBIOLINKを導入し細菌検査の統計業務を行ってきた。今回2年間の統計結果から当院におけるMRSA及びMSSAについての検出傾向およびその比較検討をしたので報告する。

## II. 方 法

全入院患者の細菌検査を対象とし、2007年11月より2009年10月までの期間に提出された検体について分析した。検体は呼吸器系 (喀痰・咽頭粘液・鼻水・鼻汁)、穿刺液 (腹水・胸水・関節液・髄液・静脈血・動脈血)、泌尿・生殖器系 (尿・尿道分泌物・婦人科分泌物)、消化器系 (便・胆汁) その他 (膿・カテ先・ドレーン・眼脂・その他の分泌物) に分類し、総検体数で除した。また、MRSAが検出された症例を年齢別に分け、分布を調査した。しかし、調査期間中の入院患者全体の年齢構成は調べられなかった。

## III. 結 果

MRSA とMSSAの総検体数を経時的に示した (図1)。MRSAの検体数は2008年12月頃より増加傾向であったが2009年7月からは減少してきた。MSSAについては、ほぼ横ばいであったが2009年10月に増加していた。

次に、MRSAが検出された検体を部位ごとにわけ、総検体数で除したものを経時的にみた (図2)。MRSAの検体は呼吸器系が最も多く、2009年から増加傾向にあった。その他 (膿・カテ先・ドレーン・眼脂・その他の分泌物) は2009年3月から7月まで著増していた。

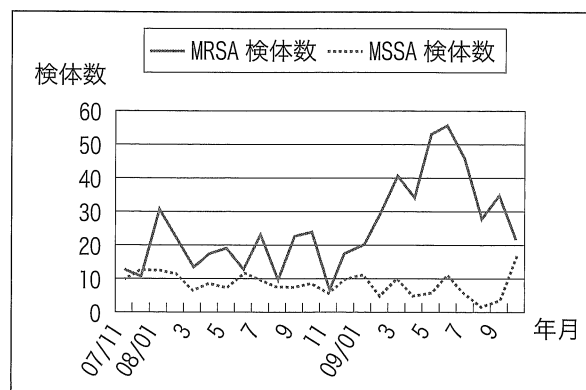


図1 MRSA・MSSAの検体数

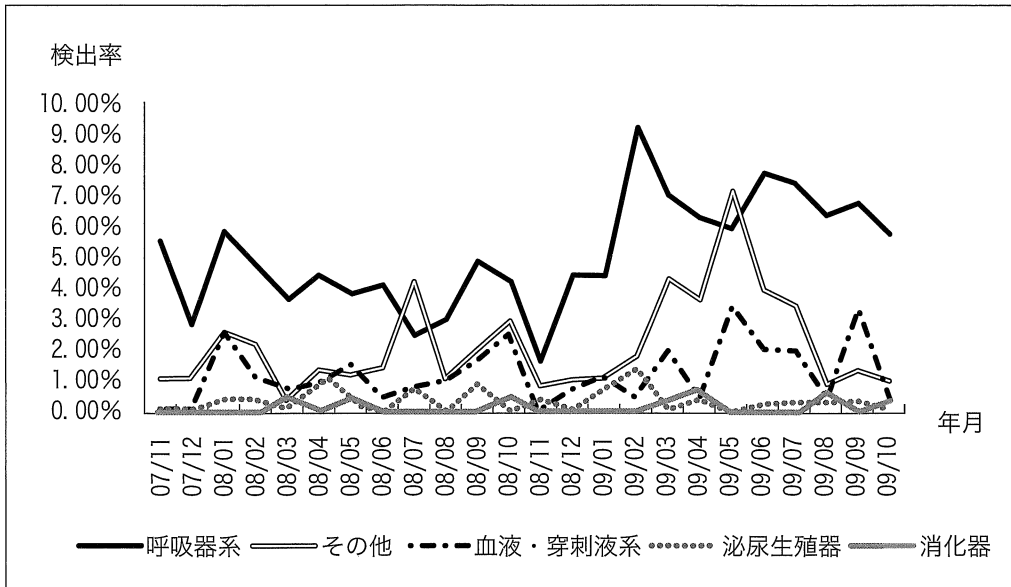


図2 検体別のMRSA検出率

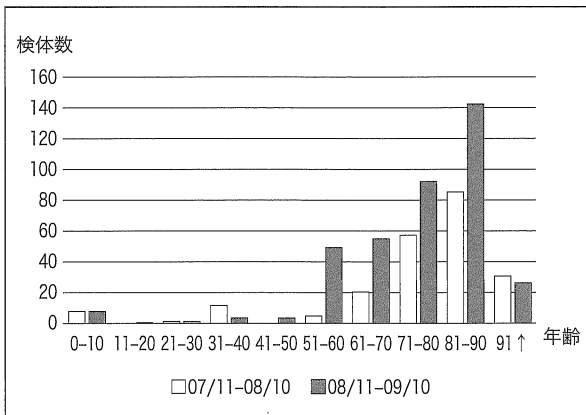


図3 MRSAの年齢別検体数

表1 病棟のMRSA検体数と1日平均患者数

病棟名	MRSA検体数	1日平均患者数
救急病棟	125	9.4
3階東病棟	70	26
3階西病棟	80	47.3
4階東病棟	121	45.5
4階西病棟	123	45.7
5階東病棟	92	51.8

MRSA検体数は2007年11月から

2009年10月までの合計

1日平均患者数は2007年11月から  
2009年10月までの平均

MRSAの年齢別検体数を図3に示す。81~90才が最も多く、次いで71~80才であった。また、51才~60才及び61才~70才の年齢層は、2007年11月から2008年10月より2008年11月から2009年10月の増加が著しく、透析患者・創傷ケア外来受診者等、糖尿病に由来しているものが63%を占めていた。

表1に病棟別にMRSA検体数と、各々の1日平均患者数をまとめた。MRSA検体数は救急病棟が最も多く、次いで4階西病棟、4階東病棟の順であった。

#### IV. 考 察

MRSA感染症は高齢者に好発し<sup>1)</sup>、男性にやや多く、術後患者や一般・栄養状態不良で抗菌薬投与中の免疫不全患者に多いと言われている<sup>2)</sup>。今回調べた限りでは当院では、MRSAは呼吸器系の検出率が高かった。しかし、全体として夏にMRSA検出のピークがあったのは膿・分泌物の検出率が著増したためと考えられた。また、年齢別では71才以上(特に80才以上)に多くみられた。今回の調査では入院患者の年齢構成が正確には把握されなかったために断言はできないが、入院患者の高齢化を反映していると思われる。初年度に

比べ2年目に51~70才の増加がみられるが、これは糖尿病患者の入院が増加しているためと考えられた。

また、救急病棟は手術後等の重症患者が入院しているためにMRSAが高率に検出されるのは当然であるが、1日平均患者数は他病棟に比べて9.4人(表1)と少ないので注意が必要だと思われる。

## V. 結 語

今回の調査を通して、当院でもMRSAに罹患する患者は高齢者が多く、呼吸器系から検出される率が高いことがわかった。また、救急病棟で多く検出される傾向もうかがえた。今後は更に

BIOLINKを利用し、MRSAの統計に加え、サーベイランス等、院内感染防止に努めて行きたい。また、DPC請求のことも考え抗生剤等についても調査して行きたい。

## 文 献

- 1) 島田馨, 村尾裕史. MRSA感染症 第6章 高齢者. MRSA感染症と薬物治療のコツ. 第3版. 東京:エルゼビア・サイエンス株式会社ミクス; 2001. p.84-88.
- 2) 渡辺彰. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症. 日本医師会雑誌 2004;132 (12) :304-307.